

第 33 回全国フォークリフト運転競技大会開催

初の愛知県開催、今大会より女性の部を常設

【一般の部】優勝 大沼亨選手（福島県支部）

準優勝 藤田遼太郎選手（茨城県支部）

【女性の部】優勝 長谷部あやの選手（愛知県支部）

準優勝 佐藤佳奈選手（岩手県支部）



全国フォークリフト運転競技大会 運転競技

第 33 回全国フォークリフト運転競技大会

陸上貨物運送事業労働災害防止協会は、9月23日(日)、中部トラック総合研修センター（愛知県みよし市）にて愛知県では初めての第33回全国フォークリフト運転競技大会を開催しました。今大会より従前では5年に一度設けていた女性の部を常設することとし、各都道府県支部での地区予選から選出された一般の部49名、女性の部15名の選手が学科・点検・運転の3競技で知識と技能を競いました。また、約500名の応援者が集まり、選手が競技を終えるたびに大きな歓声が上がりました。なお、地区予選参加選手は607名（男性578名、女性29名）でした。

この大会は、フォークリフトの運転競技を通して、遵法精神と安全意識の高揚、運転の知識と技能の向上を図り、職場における安全作業の確立と労働災害の防止を目的として厚生労働省の後援、公益社団法人全日本トラック協会及び一般社団法人日本産業車両協会の協賛、またコマツカスタマーサポート株式会社、三菱ロジスネクスト株式会社、ユニキャリア株式会社、トヨタL&F中部株式会社、住友ナコフォークリフト販売株式会社からのご協力をいただき開催されました。

開会式

午前9時からの開会式では、秋田進大会実行委員長（陸運労災防止協会専務理事）から開会の挨拶があり（写真1）、次いで、開催地支部の吉野雅山愛知県支部長から、選手激励の挨拶がありました（写真2）。



写真1 秋田大会実行委員長

写真2 吉野支部長

続いて、昨年の優勝者が所属していた神奈川県支部選出の鈴木智史選手が全選手を代表して、力強く宣誓を行いました（写真3）。

学科競技

オリエンテーションが行われた後、競技が開始され、選手は、抽選で決まったゼッケ



写真3 選手宣誓

ン番号を胸に着けて、最初の学科競技に取り組みました（写真4）。内容は法令、フォークリフトの荷役に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識等安全の基礎として必要な知識に関する問題です。



写真4 学科競技

点検競技

続いて、点検競技です（写真5）。フォークリフトの作業開始前点検は、労働安全衛生規則により義務付けられています。作業開始前にフォークリフトの点検を適切に行い、不具合箇所を見つけるという設定です。制限時間内の確な点検が行われました。

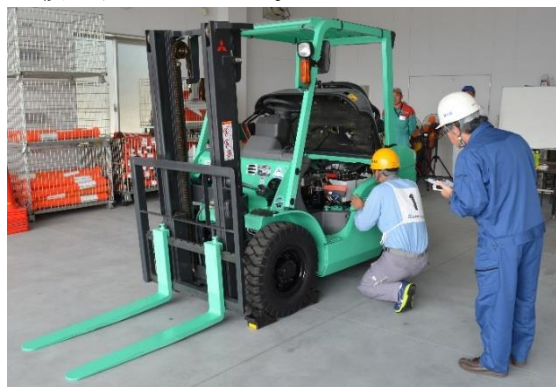


写真5 点検競技

運転競技

最後は、運転競技です（写真6）。2.5t ガソリン・トルコン車を使い、決められたコースを走行し、所定の荷の積み卸し等を限られた時間の中で行います。競技開始前、選手がフォークリフトにキーを差しエンジンを掛けるまでの間の、祈るように、神経を集中させるように目

を閉じ息を吐く姿に緊張感と競技に掛ける思いが伝わってきました。



写真6 運転競技

表彰式

競技は最高気温が 30 度まで上がる天候の中で行われました。

全選手が競技を終え、午後 4 時から表彰式が行われました。表彰式の会場となった多目的ホールには、選手の所属する事業場等から応援にかけつけた方々が入りきれないほど集まり、ホールの外まで熱気が溢れていました。

当協会渡邊健二会長からの「陸運業における労働災害は、ここ数年増加傾向にあり、特に荷役関連災害がその多くを占めている状況にあります。その中でも、フォークリフトに起因する災害は、荷役 5 大災害の一つとして、その安全作業に向けた取組が一層求められているところです。選手の皆様には本日の大会を通じて得られた経験を職場の同僚、後輩の方々に広く伝えていただき、職場における労働災害の防止になお一層のご尽力をいただきたい。」旨の挨拶（写真7）に続き、ご来賓の厚生労働省労働基準局椎葉茂樹安全衛生部長（写真8）、全日本トラック協会会長（代読：小幡銀伸全日本トラック協会副会長（愛知県トラック協会会長））（写真9）、日本産業車両協会会長（代読：高瀬健一郎専務理事）（写真10）のご祝辞をいただきました。



写真 7 渡邊会長

写真 8 椎葉安全衛生部長



写真 9 小幡副会長

写真 10 高瀬専務理事

その後、当協会黒谷一郎技術管理部長から、各競技についての講評（5 ページに掲載）と入賞者の発表が行われました。入賞者のお名前を読み上げる都度、応援の方々から歓声が上がり、大きな拍手が沸き起こりました。

続く表彰にて、厚生労働大臣賞と陸運労災防止協会会長賞各賞が入賞された選手に授与されました。また今回の大会から新たに会長杯が設けられ、一般の部、女性の部の優勝者に授与されました。

表彰式、入賞者記念撮影の後、今回の大会は、午後 5 時に閉会となりました。



入賞選手の皆さん

前列左から、黒部愛知労働局労働基準部長、横尾事務局長、椎葉安全衛生部長、大沼亨選手、長谷部あやの選手、渡邊会長、秋田大会実行委員長、吉野愛知県支部長、後列左から、近久寛之選手、塩澤純選手、盛田宣之選手、荒木洋平選手、藤田遼太郎選手、佐藤佳奈選手、杉山真裕美選手、志村美佐子選手、川畑恵梨選手、林裕子選手（入賞者一覧は3頁に掲載）

第33回全国フォークリフト運転競技大会出場選手の皆さん（敬称略）

一般の部（49名）

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
北海道	大城 稔	栃木県	森藤 雄樹	石川県	今村 英二	京都府	甲斐 紀行	愛媛県	近久 寛之
青森県	菊地 憲章	群馬県	中島 将大	福井県	高崎 映哉	大阪府	安本 大祐	高知県	森 博茂
岩手県	千葉 勝義	埼玉県	佐野 正太	長野県	山口 涼太	奈良県	金原 康憲	福岡県	荒木 慎也
宮城県	小野 恭平	埼玉県	堀口 勇一	岐阜県	川上 賢志	和歌山県	田中 大輔	佐賀県	船岡 秀伸
秋田県	渡部 龍太郎	千葉県	高根 精	静岡県	河守 俊樹	鳥取県	齋木 陽介	熊本県	渡辺 昌博
山形県	兵藤 圭佑	東京都	荒木 洋平	静岡県	勾坂 績	岡山県	川上 達也	大分県	中澤 雄介
福島県	大沼 亨	神奈川県	鈴木 智史	愛知県	海士部 昌造	山口県	吉村 圭太	宮崎県	盛田 宣之
	菊地 隆男		力石 祐太郎		塩澤 純	徳島県	盛 博文	鹿児島県	米森 康之
茨城県	藤田 遼太郎	新潟県	錦織 秋一	三重県	永田 一竜	香川県	中川 宏昭	沖縄県	富永 太樹
栃木県	片柳 友孝	富山県	越前 涼	滋賀県	圓城 規之	愛媛県	平岡 純		

女性の部（15名）

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
岩手県	佐藤 佳奈	埼玉県	志村美佐子	静岡県	川畑 恵梨	大阪府	宮地 明子	熊本県	上川 真世
宮城県	宮原 初恵	神奈川県	渡邊 優歌	愛知県	長谷部あやの	奈良県	福岡 歩	宮崎県	杉山真裕美
群馬県	角橋 里美	富山県	林 裕子	三重県	湯浅 夏実	徳島県	床櫻 春美	沖縄県	比嘉真由美

第33回全国フォークリフト運転競技大会 一般の部 採点結果（敬称略）

順位	氏名	支部名	総合得点	学 科	点 検	運 転	配 点	最 高 得 点	平 均 点
優 勝 (厚生労働大臣賞)	大沼 亨	福島県	995	300	95	600	学 科	300 (3名)	270.5
準優勝	藤田 遼太郎	茨城県	976	276	100	600	点 検	100 (13名)	89.9
第3位	荒木 洋平	東京都	975	300	95	580	運 転	600 (2名)	535.0
第4位	盛田 宣之	宮崎県	973	288	95	590	総合得点	1,000 995	895.4
第5位	塩澤 純	愛知県	969	294	95	580	()内は最高得点者数		

健闘賞 近久 寛之 愛媛県

第33回全国フォークリフト運転競技大会 女性の部 採点結果（敬称略）

順位	氏名	支部名	総合得点	学 科	点 検	運 転	配 点	最 高 得 点	平 均 点
優 勝 (厚生労働大臣賞)	長谷部あやの	愛知県	958	288	90	580	学 科	300 (1名)	236.4
準優勝	佐藤 佳奈	岩手県	922	252	80	590	点 検	100 (1名)	75.7
第3位	杉山真裕美	宮崎県	916	276	80	560	運 転	600 (1名)	470.7
第4位	志村美佐子	埼玉県	887	282	90	515	総合得点	1,000 958	782.7
第5位	川畑 恵梨	静岡県	881	276	80	525	()内は最高得点者数		

健闘賞 林 裕子 富山県

「お詫び」表彰式当日に配布した採点結果に一部誤りがありました。選手並びに関係者の皆様には心からお詫び申し上げます。



今大会より一新した、入賞者へのトロフィー及び表彰プレート（右から2番目のトロフィーが新たに設けた会長杯）

第 33 回全国フォークリフト運転競技大会 講評

技術管理部長 黒谷 一郎

今年度の大会は、初めて愛知県みよし市の「(一社) 愛知県トラック協会・中部トラック総合研修センター」での開催となりました。また、5 年ごとの開催であった「女性の部」を今年度より毎年開催することとし、参加選手は、「一般の部」49 名、「女性の部」15 名、合計 64 名でした。本年は、例年を上回る 500 名(関係者を含む)の方々に来場いただきました。

晴天に恵まれ、30 度を超える気温の中での大会となりましたが、運転競技を屋内実技練習場内に設置できたおかげで、良好な環境で競技が実施できました。従前より観覧スペースとコースの距離が近くなりましたので、選手の皆様は多くの観客の盛大な応援を受け、緊張の中での競技となったかもしれませんが…。

日ごろの実力を発揮できた方、また残念ながら十分に実力を発揮できなかった方、それぞれだったと思いますが、精一杯競技に臨んだ選手の皆さんに心より敬意を表する次第です。全国大会に参加した経験を今後の各職場での安全で迅速なフォークリフト荷役作業に生かしていただけるものと信じています。

成績概要

「一般の部」優勝者の総合得点は、995 点(満点 1,000 点)でした。5 位まで得点差は 26 点でした。

「女性の部」優勝者の総合得点は、958 点で、準優勝とは 36 点差でした。

各競技別の詳細は、以下のとおりです。

「一般の部」

◎学科競技：最高点 300 点 3 名
(昨年度最高点 276 点 1 名)

平均点 270.5 点
(昨年度 231.6 点)

◎点検競技：満点(100 点)13 名
(昨年度 29 名)

平均点 89.9 点
(昨年度 94.7 点)

◎運転競技：満点(600 点)2 名
(昨年度 2 名)

平均点 535.0 点
(昨年度 527.3 点)

「女性の部」

◎学科競技：最高点 958 点 1 名
平均点 787.7 点

◎点検競技：最高得点 95 点 1 名
平均点 75.7 点

◎運転競技：最高得点 590 点 1 名
平均点 470.7 点

今大会は、学科、点検、運転の各競技で高得点の選手が多く、レベルの高い大会となりました。

ただ、運転競技において、競技時間超過を気にしすぎるあまり、安全運転の基本である「指差確認」が形式的な確認になってしまっている選手が目立ったように感じられました。

今年度より常時開催となった女性の部の選手をはじめ、参加選手全員の奮闘と応援の方々の熱意により、本大会の目的である、運転技能の向上と安全意識の高揚を十分果たすことのできた大会であったことに感謝を申し上げ、講評とします。



自分を信じて

第33回大会 一般の部 優勝 大沼 亨選手

優勝おめでとうございます。ご感想をお聞かせください。

自分の納得する演技ができたので、結果はどうあれ後悔はしないと表彰結果を待ちました。自分の名前が最後に呼ばれたとき、本当にうれしかったです。

大会への出場のきっかけは、自分の尊敬する先輩が大会に出場していたからです。

自分は今大会で3年連続3回目の全国大会出場です。本当は前回大会で終わるつもりでした。でももう一回出場したいという想いが収まらず、妻に相談しました。妻からは反対されましたが、何とか理解してくれました。それで結果が残せたので良かったです。3歳の息子と、今まで苦労させた妻のところに胸を張って帰ります。

どのように大会に臨まれましたか？

最後の大会と思い臨んだ県大会（福島県大会）では、自分が納得できる内容・点数ではありませんでしたが、全国大会に出場できました。出場が決まってからも荷積みの待機時間も学科競技のための勉強をしました。実技の練習は会社で、休みの日、業務が早く終わった日、運転業務で朝早く帰った日は会社で仮眠を取って、練習に取り組みました。一人でコースを作り、練習しました。片付けも一人です。

全国大会の前に行われた社内模擬大会では、上位に入ることができました。

各競技で手応えはありましたか？

学科競技は、前回大会に比べると難易度は高くなかったと感じました。解きやすい問題が多かったです。学科競技が終わり、気持ちが落ち着きました。

点検競技では、学科競技に手応えがあった

ので、スムーズに臨むことができました。

運転競技は、できれば早い順番が良かったですが、昼食後の競技でした。他の選手の方々が上手に運転されているのを見ると気持ちが下がりそうになるので、気を付けました。昼食は半分も食べられませんで

した。それでも初めての全国大会では口にすることもできませんでしたので、年々食べられるようになりました。3年連続の全国大会ということもあり、気持ちに余裕を持って臨むことができました。

優勝することができた秘訣を教えてください。

どれだけ練習しても、どれだけ勉強しても自分に自信が持てませんでした。でも最後は、今まで散散取り組んできたので、教えてくれた教官と自分を信じたことです。

現在の職務内容をお聞かせください。

トラックの運転手です。フォークリフトは運転しない日もあれば一日中運転する日もあります。

最後に一言お聞かせください。

これからも安全と労働災害防止を第一に業務に取り組み、機会があれば教育にも携わりたいと思っています。



優勝された大沼選手



感謝の気持ちを持って

第33回大会 女性の部 優勝 長谷部あやの選手

優勝おめでとうございます。ご感想をお聞かせください。

自信がなく、ダメかなと思っていたので、驚きました。自分の会社は全国から何人も出場できない事業場なので、その中で懸命に指導してくださった指導員や協力いただいた方々に本当に感謝です。

大会出場のきっかけをお聞かせください

社内のフォークリフト大会の上位者が陸災防愛知県大会に出場することができることを知ったのがきっかけです。

2年前に参加した社内のフォークリフト大会で上位に入ることができ、愛知県大会に出場しました。今年も愛知県大会に出場することができ、全国大会に出場することとなりました。地方大会は2年連続2回目、全国大会は初めての出場です。

どのように大会に臨まれましたか？

春に行われる社内大会のために練習に取り組み、6月開催の県大会のためにも練習に取り組みました。

全国大会出場が決まった日から1日1時間学科競技のための勉強を自宅で行っていました。

全国大会2週間前から追い込みということで、業務から外していただき、社内で全国大会に向けて勉強や点検競技と運転競技の練習に取り組みました。指導員に2週間付きっきりでご指導いただきました。

各競技で手応えはありましたか？

学科競技は、出来た感じはありました。分からない問題もありませんでした。

点検競技では、競技中に分からなくなってしまって、ダメだと思いました。

運転競技に向けて、終わった競技の結果を引きずらないようにと日々取り組んできました。

したので、気持ちを切り替えることができました。競技まで時間があつたのも幸運でした。また、競技場が県大会と同じでしたので、県大会の延長とすることができて、落ち着いて臨むことができました。



優勝された長谷部選手

運転競技は、県大会の運転と比べると練習も重ねたので出来は良かったのですが、他の女性選手の運転が良かったので、自信を持つことができませんでした。競技が終わった後はフワフワして不安でした。

優勝することができた秘訣を教えてください。

終わった競技の結果を引きずらないということなど、たくさんの方をマンツーマンで指導していただけたことです。

県大会と全国大会が同じ会場であったことから、県大会と同じ運転ができれば良いと前向きに思うことができ、会場に恵まれました。

そして何より、会社全体で大会のために協力いただけたことです。

現在の職務内容をお聞かせください。

終日トラックとフォークリフトの運転業務に従事しています。

最後に一言お聞かせください。

社内大会、県大会、全国大会のために取り組んで得た知識と技術を活かし、会社の労働災害防止に貢献したいと思います。

